

## 様式第 2 号 (第 8 条関係)

## 審議会等会議録

会議の名称	令和 2 年度 第 2 回 加須市環境審議会(書面)
開催日時	令和 2 年 8 月 27 日 (木) (書面決議〆切日)
開催場所	—
議長氏名	浅野和生
出席委員 (決議委員)	浅野和生、鈴木君恵、宮崎悟、前田博之、細谷信雄、鳥海靖久、 来須徳夫、蓮見浩明、高橋近好、若山敬、青木正枝、石鍋恵子 村上正吾、横田二也、柳田浩
欠席委員	—
会議次第	議事 1) 環境の保全及び創造に関する施策の令和元年度の実績及び助 言
会議資料の名称	資料 1 加須市の環境 資料 2 加須市の環境 令和 2 年度版 (令和元年度実績) の概要 について 資料 3 成果指標の一覧
会議の公開又は 非公開の別	公開
非公開の理由	
傍聴者の数	
説明者の職・氏名 (書面回答対応)	環境安全部長 栗原茂 環境安全部副部長兼環境政策課長 矢澤利夫 環境政策課主幹 金久保栄子
事務局職員職・氏名	
会議録の作成方法	<input checked="" type="checkbox"/> 要点記録 <input type="checkbox"/> 全文記録
その他必要な事項	なし

様式第3号（第8条関係）

発言者	会議の内容(発言内容、審議経過、決定事項等)
宮寄委員	<p>【意見等】</p> <p>引き続き取り組みをお願いしたい。</p>
事務局回答	<p>アクリメーション振興財団様には、本市の環境学習のメニューの一つである、「ヨシ紙すき講座」の際に、材料や道具の提供をいただいておりますこと、そして市内（北川辺地区）の小学校が、環境学習の機会の提供をいただいておりますことに御礼を申し上げます。</p> <p>様々な機関や団体等と連携した環境学習の機会の拡充は、課題の一つであると認識しておりますので、引き続き様々な機会での情報共有・連携をよろしくお願ひします。</p>
前田委員	<p>資料1「57ページ アライグマの防除」</p> <p>第1回目の審議会の際に、アライグマの捕獲目標が少なく実態に合っていない旨の意見があった。目標値は変更しなくとも、実績・成果において意見を踏まえた記述があっても然るべきではないか。</p>
事務局回答	<p>ご指摘のとおり、アライグマの捕獲数の指標につきましては、そもそも増えることが良いのかという議論となり、アライグマがいなくなるのが最終的に望ましいと思われまます。</p> <p>現時点では、増加している個体を積極的に捕獲することに視点を置いておりますことから、増えることが望ましい指標を設定しております。考え方を今後整理したうえで、目標値の設定及び成果の記載方法等、次期計画に反映させたいと考えているところがございますので、ご意見として承りたいと存じます。</p>
前田委員	<p>資料1「54ページ 営農による緑地の保全」</p> <p>施策事業の成果</p> <p>2)多面的機能支援事業</p> <p>3)素掘り推理からの更新</p> <p>は、生物の生息・育成空間となってきた貴重な素掘り水路がコンクリート水路になるため、施策Ⅱ-1-(1)自然環境の保全・再生にそぐわない内容である</p>

事務局回答

環境を考えるうえで、当然自然環境（の保全）は重要な要素ではございますので、生態系の視点から考えると、真逆であるとのこと指摘は然るべきかと存じます。しかしながら、永遠の課題となりますが、自然環境の保全と発展（技術向上）のバランスを取っていくことは、第2次計画でもポイントとしておりますが、社会、環境、経済の総合的向上に寄与するものと考えられております。

素掘り水路の更新である本取組が、個別に見た場合には、自然環境保全の後退にも感じられますが、全体的な営農による緑地保全の広義の意味では手段の一つと捉えていただけたらと存じます。

何れにいたしましても、環境と農業は関連が深い分野でございますので、次期計画にあたっては、バランスを取れた取組を検討していきたいと存じます。

前田委員

資料1「58ページ 水と緑と文化のまちづくり基金の活用」同基金を浮野の里の公有地化に充てたことは、まさに「Ⅱ・1・(1) 自然環境の保全・再生」合致する誇れる成果である。自然環境の保全・再生は、土地を確保することで、自然環境の質を上げることが基本となるので、第2次環境基本計画の策定にあたっては、イベント数の回数や参加者数といったソフト施策に限らず、土地や質に関わる事業・指標を積極的に挙げていただきたい。

事務局回答

次期計画の指標設定にあたっては、十分関係課と連携を図って相応しい設定ができるよう努めてまいりたいと存じます。

前田委員

資料3について

「成果指標の状況」にある「評価とその理由、課題」「事業の改善点、今後の取組内容等」が、第2次環境基本計画の策定にあたり、施策、事業、成果を考える上で、大変重要になる。成果指標では拾いきれない事業も含め、課題や改善点が把握できるよう、よく精査していただきたい。

事務局回答

ご指摘のとおり、過去の実績からの課題、今後の方向性など、アンケート結果からの傾向、指標として図りきれない部分も含めて、次期計画の反映に努めてまいりたいと思います。

横田委員

自転車歩行者道整備路線数について、目標がないのは何故か。目標がない施策は施策ではないと考えるがいかがか

事務局回答

ご指摘のとおり、この事業は取組状況が伸び悩んでいることから、昨年度も状況確認のご質問をいただいた事業でございます。まず、本市の道路整備の考え方は、市の道路整備計画を基に進めているところでございます。特に、自転車歩行者道につきましては、用地買収を伴っての幅員を確保する必要があり、実施が難しい状況でございます。環境基本計画を策定した際には、毎年1本を整備したい目標がございましたが、これらの事情や市全体の道路事情を見た場合、他の優先すべき路線があることを考慮しますと、自転車歩行者道の実施が難しい状況でございます。したがって、整理のうえで目標のない指標を進行管理から外す選択肢もあることは承知しているところでございます。しかしながら道路事情は別として、環境政策サイドから事業の推進は必要と感じておりますことから、本計画の整理の都合で、目標なしのまま施策として残す整理をさせていただいております。

横田委員

景観指針を策定する地区数（説明では「景観地区」となっている）ですが、市として指針を策定するにあたって必要と思われる「ワークショップ」をどのくらい開催したのを知りたい。

事務局回答

策定した当時の経過の質問かと思われませんが、まず、水深地区を10地域に分けての検討会を2回ずつ開催、全体会を1回開催、その後フィールドワークなどを含むセミナーを5回開催し策定しました。令和元年度のセミナーは、資料のとおり5回開催しております

【今回の議事及び市の環境基本計画に基づく取り組みについて、議事内容を承諾した委員】

宮崎 悟 委員

前田 博之 委員

浅野 和生 委員

細谷 信雄 委員  
鈴木 君恵 委員  
鳥海 靖久 委員  
来須 徳夫 委員  
蓮見 浩明 委員  
高橋 近好 委員  
若山 敬 委員  
青木 正枝 委員  
石鍋 恵子 委員  
村上 正吾 委員  
横田 二也 委員  
柳田 浩 委員

会議の内容に相違ないことを証するため、ここに署名します。(注)

令和 2年 9月 7日

署名 武野和生

(注) 特に署名を要しない審議会等については、事務局名を記入してください。